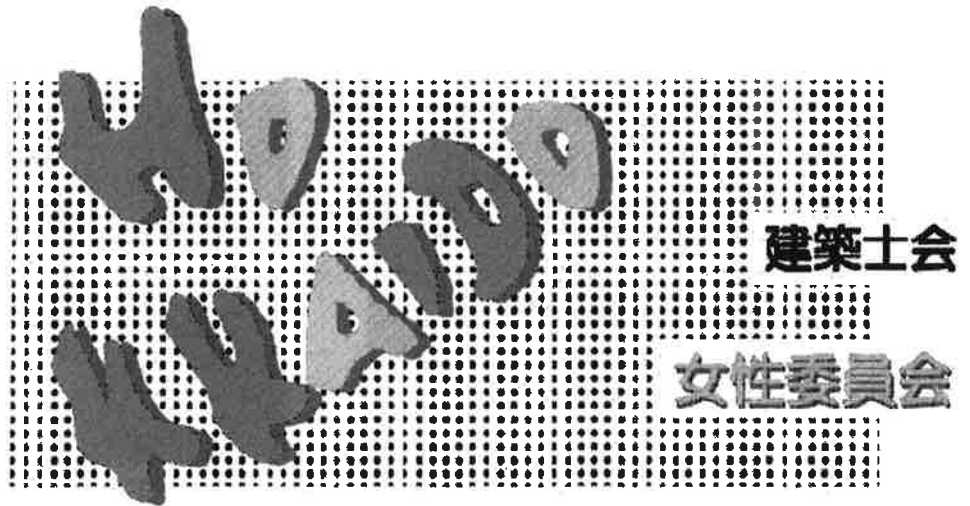


No. 37



## 平成19年全国女性建築士連絡協議会報告

連合会女性委員会委員 山本 明恵

7月13、14日青森市において全国女性建築士連絡協議会が開催された。「地域と共生する住環境づくり」～自然とこだまする～をテーマとし、一日目は基調講演の講師に現役のマガギで白神マガギ舎代表の工藤光治氏を招き、自然と共に生活する中で感じた環境の変化について語ってもらった。パネルディスカッションでは「北のまちとくらし」について、青森県の山や海、暮らしに関わる活動している4名のパネラーが、自然と共生するとは何かを熱く議論した。二日目の分科会（8分科会）では、昨年引き続き「集まって住む」を担当し、多様化する高齢者の住まいの中から最近増加する「高齢者共同住宅」に視点を当て、住み替え先の選択基準は何か、住み替えの諸問題（自宅処分や相続、地域、家族等）をどう解決するのかをトータルでサポートするシステムづくりやソフト面での支援の必要性、関係職種との連携や建築士の役割について活発な意見交換が行われた。



## 「全国女性建築士連絡協議会」に参加して

旭川支部 赤木 希好

青森市において開催された「全国女性建築士連絡協議会」に参加しました。全国から集まった約280名の建築士。日々研鑽をしている人たちのエネルギーを感じ、勇気と元気をもらえる会でもあります。全体会では、青森の土地に根ざした暮らしと活動を提案するパネリストの方々のお話から、まとめとして次の事が挙げられました。

- 自然環境の中で生かされていることを再認識し、それぞれの地域での暮らしを見直し提案する。
  - 専門家と生活者の双方の視点からの提案や提言により、地域と共生する住環境づくりに努める。
  - 異業種との連携を図りながら、安全な社会の構築を目指し、地域住民に対する情報発信に努める。
- 地球環境を守り、次世代に譲り渡していく責任があることを意識しました。分科会では、昨年旭川支部で開催したワークショップ「住みたい家ってどんな家？」の報告をしました。アニメを題材としたWSに興味を持ってくれた人も多く、他地域でも開催されるかもしれません。エクスカッションでは、五所川原の「斜陽館」と「立佞武多の館」を見学。太宰治の生家である「旧津島邸＝斜陽館」は細部に趣向を凝らした邸宅で、現在は国の重要文化財です。また、高さ22mの立ちねぶたは荘厳で、文化と技が継承されています。灯の入った山車が街を練り歩くのを見たら、跳ねずにはいられないだろうと思いました。

## セミナーを開催して

道東Aブロック 大西 智子

去る9月22日、道東Aブロックでは、一般の方を対象とした「住宅リフォームをお考えの方のためのリフォームセミナー」を、イオン釧路SCで開催しました。3連休の初日ということもあり、受講者が集まるか心配したのですが、会員も含めて約40名が参加しました。

今回は、副委員長の東さんに講師をお願いしたこともあり、リフォームのチェックポイントやバリアフリーリフォームをテーマに進めていただきました。

最近、新築件数が減っている反面リフォームの需要は伸びています。数が増えると当然、トラブルも増えてきます。リフォームの目的を確認する、図面と見積を照合し、工事内容に食い違いがないか確認する、追加変更を記録するなど施主の目線でのお話でしたが、逆に自分たちが施主にどう接するべきかという点で、参考になりました。

また、バリアフリーリフォームでは、バリアフリーは、高齢者や障害者だけでなく、全ての人が使いやすいものであるべきだ、ということ、介護保険制度や福祉器具についてなど事例を交えながらお話していただきました。介護保険制度の改正もあり、在宅の高齢者は増えています。本来は、心と体に余裕のあるうちに家の危険度をチェックしてリフォームをし、安全な住まいで、健康を保つべきというお話を納得しているうちにセミナーは終了しました。

一般の方を対象としたため、建築職の方からは、もう少し専門的なことを聞きたかったという意見も後でいただきましたが、参加した方からは、わかりやすくよかったと好評でした。



主催者の皆さんです

## 住まいの防犯・防災対策 勉強会に参加して

道北ブロック 富所 慶子

旭川産業高度化センターにおいて10月27日、消防と警察の方を講師に招き、住宅内における高齢者の事故・災害はどのようなものか、またそれらを防ぐためにはどうしたらよいか、「住まいの防犯 防災対策」と題して勉強会が開かれました。

始めに消防の方のお話では、阪神淡路大震災の様な大きな地震は、地震国である日本ではどこで起きても不思議ではないのだそうで、私の住んでいるこの旭川では、地震・水害とは関係ないと思っていましたが、今回配布されたハザードマップを見直し、水、非常食の準備等、日頃からの心構えが大切で、自分を守るのは自分と言いつけさせました。非常食と言えば頭に浮かぶのはカンパンですが、最近では水をかけるだけでご飯になるのがあるとか。

次に警察の方のお話は、主に空き巣の話で、ドロボウは必ず下見をするそうで、しかも最近ではスーツ姿の営業マン風が主流らしい。もしそんな姿の人が家の周りをうろついていたら、声をかける事。声をかけられると顔がわるいので、諦めるそうです。また、朝のゴミ出し時間のほんの数分の間も危険。15分以上かかるドロボウはプロとは言わないとか…ゴミ出しをした後に近所の人と近所会議をしてる皆さんは、要注意です。

住まいを設計する我々がどんなに高性能な電子錠をつけても、これでは意味がありません。目から鱗が落ちるようなお話を聞いて大変参考になりました。



真剣にハザードマップを確認